

< 第 1 回アドバイザー会議でのご意見 >

・ : 委員からのご意見 : 事務局の回答

これまでの検討状況について

【社会福祉法人藤沢市社会福祉協会 藤沢市老人福祉センターこぶし荘所長】

- ・こぶし荘では、駐車場が不足している。D池の駐車場はどのように配置されるのか。
資料をもとに駐車場の暫定的な位置を説明した。

【藤沢市土木部長】

- ・整備水準のイメージは、境川遊水地と同様か。
大庭遊水地に近い整備水準と考えている。

【藤沢市富士見台小学校教頭】

- ・火気の使用は、許可するのか。
火気使用等の維持管理内容と使用方法については、来年度以降の議題とする。
- ・子供が自主的に遊びを創出できるような、何も無い空間が欲しい。
地域懇談会でも、子供に遊び場の提供をと考えているが、何も無い空間という視点では考えていないと思われるので、この意見を地域懇談会に伝える。

【関東学院大学名誉教授 宮村忠 委員長】

- ・都市公園的な印象である。水害を防ぐために整備される施設であるにも関わらず、守られている意識が芽生えるような計画ではないように感じる。
- ・細かくデザインせずに、藤沢市の全体計画を活かせるようにした方が良いのではないか。
- ・「流れている所だけが川ではない」という総合治水の基本のもと、遊水地を取り囲む状況をも含めて、川のことを教える機能が良かった方が良い。
- ・施設を固定化しない方が良い。次の時代に柔軟に変化できる整備メニューにした方が良い。
- ・川の整備の思想を流域全体で考え、それを反映させることが望ましい。

【神奈川県藤沢土木事務所所長】

- ・各池の雰囲気はみな違う。現在、A、B、C、D池と呼んでいるが、できれば各池の特色に合った愛称を付けてもらえば、親しみやすくなり、良いのではないか。
- ・学校教育の中で、川に対する付き合い方を子供たちに教育して欲しい。

【関東学院大学名誉教授 宮村忠 委員長】

- ・維持管理者を早く決め、維持管理をどうするかということ巻き込んだ議論をするべきだ。
維持管理のことは、来年度以降の大きな検討テーマとして議論していく。

今後の予定について

【関東学院大学名誉教授 宮村忠 委員長】

・料金を徴収するか否かにより、維持管理内容も変わってくるが、上部利用を有料にできるか。

【藤沢市まちづくり推進部長】

・藤沢市が管理した場合、有料にすることは、可能である。

【日本大学 生物資源科学部教授 勝野武彦 委員】

・決まった整備メニューを決まった範囲におさめるのか。自由度はどの程度あるのか。

【神奈川県藤沢土木事務所所長】

・用地買収状況に応じて多少形状が変わる可能性があるが、基本的には変わらない。法面の勾配等の調整は可能である。

【日本大学 生物資源科学部教授 勝野武彦 委員】

・この計画のアウトプットについて、どの程度細かい検討を行うのかがわからない。また、地域懇談会の中では、どの程度までの詳細なスケールの検討が可能か。

来年度以降、細かなスケール感を持った施設の検討や維持管理の検討を行う。

【関東学院大学名誉教授 宮村忠 委員長】

・ピオトープは、人工的なものより自然なもの(葦等の植物の植生があるもの)が良いという場合もある。

今年度は、なんとなく水辺の親水空間があった方が良く、ということまでの話である。来年度以降、深く掘り下げて検討する。

【関東学院大学名誉教授 宮村忠 委員長】

・勝野委員をワーキンググループに呼んだ方が良いのではないか。

お願いしたい。地域懇談会に報告する。

【関東学院大学名誉教授 宮村忠 委員長】

・会議の体制については、この場所に対する関心度、行動力、市民力等に合った、この場所なりのやり方を探し出すことが望ましい。

【藤沢市富士見台小学校教頭】

・この地域の方がグラウンドを使いたくても、実際使うのは他地域の方ということが考えられる。

地域懇談会の中には、社会体育協会や市のスポーツ協会、レクリエーション協会の方が入っており、地域の意見を吸い上げる形としている。

【藤沢市まちづくり推進部長】

・下土棚遊水地の上部利用は、これまでの大庭遊水地の経験から言うと、いずれにしても藤沢市が管理していく。上部利用を通して、藤沢市民のスポーツレクリエーションのニーズに対応する方式になるかと思う。維持管理をする際にハイコストにならないようにして欲しい。特にピオトープについては、冠水しても維持できるようなものを考えるといった、具体的な議論を行って頂きたい。

～ 以上 ～